

「デクノボ - 」のように行動できるのは

先週、ある大学のゼミで福祉を学ぶ学生に講話する機会を得た。以前にHPにも記載したことのあるガン患者等の「在宅緩和ケア支援センター“虹”」の企画、運営に頑張っている看護師も聴講したいということで、ご一緒した。

私としては、自分の講義を聴いて貰いたいということより、僕を招いてくださった教授に彼女と会ってもらい、教授を通してこの大学に、今後、彼女の企画・運営への理解・支援へのパイプが出来ないかなとの願いからであった。教授は早速、大学内の関心のありそうな先生へ彼女を紹介してくれた。

こうして、人の輪が広がることが何より勇気を与えてくれ、現実の力、支援に繋がると思う。

後日、彼女から以下のメ - ルを受信した。

「昨日は貴重な機会を頂き、本当にありがとうございました。大学で講義をうけることも久しぶりでしたし、大切なことを再確認することは、走っているものにとって重要です。

教授のお人柄は素晴らしいと拝察致しました。……。仙台では素晴らしい先生ばかりにお会いでき、幸運です。」

直接的に援助するものは何もない自分だが、彼女の夢の実現に、少しはお役に立てているようである。

はたから見れば、時に寝食を忘れて、我が身の生活に無頓着に見える程、ひたむきに何かをしようとしている人、しかもその何かが人のためであるだけに、彼女のような人は、僕にはまぶしく、敬服するのみである。それだけに、彼女のような方々と係わり合っていると、こちらまで何か勇気をいただける。いただくばかりで、自分が「デクノボ - 」のように行動できるのは、さて、いつの日であろうか……。

(2003 年 07 月 14 日 記)